

一度社会に出た人のための社会教育を考える
－栃木県社会教育委員会議で考えたこと－

開倫塾
塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

1. はじめに

8 月 29 日の水曜日に宇都宮市の県庁の横にあります、栃木県公館の会議室で、栃木県社会教育委員会議が開かれました。私は 3 年まえから栃木県の社会教育委員をおおせつかっておりますので、その会議に参加しました。その会議では、栃木県社会教育委員の方々 20 名が集まって、平間教育長さんはじめ、教育次長や栃木県教育委員会の方々と一緒に栃木県におけるこれからの社会教育はどのようにしたらよいのかというテーマで議論をいたしました。私が会議で発言させてもらった内容を、今日は少しの時間ですが皆さんに御報告し、御一緒に考えさせていただきたいと思います。

2. 一度社会に出た人のための社会教育を考える－栃木県社会教育委員会議で考えたこと－

私が提言したのは「時代に対応した社会教育」を展開したらどうかということでもあります。つまり、これからは、「少子高齢化社会」つまり子どもが少なくなると高齢者の方が増えるという社会、それから「知識社会」、つまりナレッジ・ベースト・ソサアティといいますか、知識に裏打ちされた社会、これが進みます。それから外国との関係を深めざるを得ないことをふまえて、グローバル化に対応した社会教育を目指すべきだ。このような提言をさせていただきました。

(1) 具体的にいますと、「少子高齢化社会に対応した社会教育」は何か。

① もちろん子どもたちに対する教育は大事。これは学校とか家庭で十分行い、社会もサポートしなくてははいけません。社会教育としても、学校教育と家庭教育への支援をしなければいけない。これは当然です。

② ただ、私が一番大切と考えるのは、これから 60 歳をむかえる人や、現在、既に 60 歳以上の方々への教育、社会教育です。今の日本は、一所懸命自分のことをケアし、面倒を見れば多くの方々が 100 歳を越えるまで生きられるような、すばらしい国になってきました。そこで、60 歳をこれからむかえる方や、60 歳以上の方々への教育をどんふうにするのか、私はこれが一番大事な社会教育だと思います。

今日の日本が迎えたような人口減少社会、少子高齢化社会、長寿社会、100 歳まで気を付ければどなたでも生きられるような社会は今まで人類での歴史にはありませんでした。人類始まって以来の快挙、すばらしい出来事とさえ言えます。この長生きをするということは、人間

が求めた「夢」の一つですので大切に、大切にしたいと考えています。ただ、どのように長い人生を過ごしたらよいのかについても、できれば 60 歳になる前に、60 歳を過ぎた方は今からでも、本気になって考えたいと思います。本気になって考えた方がよいといっても、このような時代を迎えたのは、人類史上初めてですので、今までは、本気になってそれを教育する人もいなかったわけですから、あまり知識がないのが現状です。そこで、これからは、こういうふうな意味での社会教育が大事かと思います。60 歳すぎた人の生き方についての教育として求められるのはどのような中身か、これはみなさんといっしょに、これから大切な社会教育の一つとして一緒に考えていきたいと思っています。

(2)それからですね、障害者の視点も大切です。障害者の方も 60 歳以上をむかえたりします。それから、学校を出た後ですね、いろんな形でお仕事をしたり、社会生活をするわけですが、障害者への社会に出てからの社会教育もとても大事かと思います。障害者教育への予算の大半は、学校教育時代に用いられているようですが、障害者教育費用の使い方の内容をゼロから見直し、一生涯にわたり障害者の皆様に有効にかつ持続的に用いるよう工夫することも大切かと思います。

(3)それから外国から日本に来ている人の社会教育を考えるべきです。学校以外の教育、これも大事ですが、ほとんどなされていないというのが現状です。特に日本語、日本語の教育とか、日本についての教育、これが社会教育としてほとんどなされていない。

(4)働くスキルを身に付けたいと希望する人、この方々への教育を社会教育という観点から考えた方がよい。

①例えば、フリーターの方への教育も大事です。これも社会教育です。フリーターとかニートの方々と働くスキルを身に付けた方がいい方がたくさんおいでです。

②同時に、今までの仕事にプラスしてですね、もう少し高度な職業専門人を目指す方々への教育も大事で、これも社会教育になると思います。

(4)以上のように、生を受けてから、天寿を全うする間の全部の期間、つまり生涯にわたっての教育が「社会教育」だと私は考えます。生を受けてから、家庭教育、学校教育はもちろんのこと、今後は、学校を出てから亡くなるまでの間、人によっては 100 歳を越えるまで、よりよく生きるためにはどうしたらよいかという観点での社会教育が大事かと思います。

(5)栃木県には大学、短大、専門学校など高等教育機関と呼ばれるものが 18 あります。今、約 2 万 5 千名の方がそこで勉強しています。栃木県内にある大学、短大、専門学校などの高等教育機関、そういうようなものと、もっともっと社会教育は連携を強化すべきです。私は、社会教育機関として最も大切な担い手として、栃木県の大学など高等教育機関を位置づけた方がよいと考えています。

(6)図書館とか博物館とは美術館とか体育館など、今までであるような社会教育施設については、これも余りお金をかけずに整備して、顧客本位で運用することも大事かと思います。超高齢化社会、知識基盤社会、グローバル化社会の視点から考えれば、もしかしたら、今ある図書館だけでは大幅に足りないかも知れません。そこで、これからは、空いている学校とか教室とか、空いている公共施設が山ほどありますのでそれらを活用することを考えた方がよい。商業施設も空いているところが山ほどありますので、お金を余りかけないで、どうにか皆さんがよりよく生きるために、一生涯よりよく生きるために本を読んだり、勉強するスペースとして活用できたらなと思います。中心商店街の活性化のために、空いているスペースを共同で借り上げて。無数の読書スペースを街の要所につくり続けることを是非提案したいと考えます。

(7)私は「まちかど図書館」をもっともっと栃木県にも広めが方がいいと思います。フィンランドなどでは世界で一番の学力の国だと言われていますけれども、その理由の1つはいたるところに小さな図書館があるということです。フィンランドには530万人くらいしか人口がいませんので、まちかど図書館が自由にできるからっということですが、ただ栃木県も200万ですからやりようではフィンランドよりも、もっともっとすばらしい教育ができると思います。私がぜひご提案したいのは「まちかど図書館」ですよね。個人でもできますので、民間でも個人でもできることは協力してですね、自分のことについてやったほうがいいと思います。例えば、旅館とかホテルをやっている方は、空いている部屋がありましたら、もしなくてもロビー等をりょうして、図書室とかをお作りになったほうがいいと思います。

(8)板室温泉に「大黒屋」さんという温泉旅館があります。そこはちいさいですけどもすばらしい図書館があります。図書室がありますね。「大黒屋」さんを見習ってですね、図書館、図書室を、栃木県中のすべての旅館、ホテルにお作りになるとこれもすばらしいと思います。

(9)黒磯に若い方がよく行かれる「SHOZO カフェ」というカフェがあります。「SHOZO」では非常に趣のある本がたくさん並んでいます。カフェをやっている方は、ぜひ本を整備していただいて、来ていただいた方に提供する。病院とか、接骨院とかそういう医療関係のところも、本を整備したらいいと思います。開倫塾にも少しずつ子どもたちのために本を整備しようと思います。「まちかど図書館」は民間でも個人でもできますので、ぜひみなさんも協力していただいて、栃木県の方みんなが本を読んで教養を高める、人生を考える。こんなふうにしたらすばらしいことになると思います。

3. おわりに

今日は8月29日に栃木県社会教育会議が栃木県公館で開かれました。そのときの話をさせていただきました。

以上

2008年8月20日加筆